

2022年10月28日(金)晴れ、穏やかで良い気候だ。

昨日は茂原の宿に泊まり、今日は東浪見駅前から九十九里浜に向かう。千葉に入って初めて太平洋の荒波が押し寄せる九十九里浜を歩けるから、わくわくする気分だ。

生まれて初めて、日本最長の66kmにも及ぶ海岸線の一部を歩く。タイトル通り波打ち際を心行くまで歩いた。太東崎灯台に寄って、国の天然記念物に指定されている太東海浜植物群郡落を見て、このコースのゴール地点JR長者町駅へ昼に到着した。

午後は続けて「⑯黒潮の潮騒を聞く道」を歩き続ける



案内板の風化が激しくて、表面の保護版が剥げてしまった(首都圏自然歩道連絡協議会)



外房線東浪見駅には7:25到着。歯を磨いて、ベンチで朝食を採って、身支度をして出発



駅前から道標通りに海に向かう



国道 128 号線を横切って東浪見海岸へ向かう



途中緑のおばさんに道を聞いてコースを確認する



仰天！歩道に関東ふれあいの道の石標が埋め込まれていた



九十九里浜に出た！今まで関東ふれあいの道を歩いていて、海を見たのは2019年5月大磯城山公園以来だった



九十九里浜は南からの黒潮と、北からの親潮がぶつかり合う場所なのだ、湘南の海とは一味違う



日本最大の砂浜海岸で、県東部刑部岬から太東崎まで全長 66kmに及ぶ



九十九里の名は、源頼朝が一里毎に矢を立てて距離を計測した所、99本に達した事から名付けられたので、別名矢指ヶ浦と呼ばれた



一宮町釣ヶ崎海岸は特に波が荒いので、



2020年東京オリンピックのサーフィン会場になっていた



今日のコースタイトルに従って、波打ち際を歩いて行く



天候は悪くないのだが、風が強い



太東漁港、今日は漁が休みなのだろうか、人が居ない



漁協の前から雀島という名の岬町遊歩道を歩く



展望台から見た漁港と九十九里海岸、波が荒いのが良くわかる



海岸に突き出た岬の尾根を行いてゆくと



道が急に荒れてきて、一般的なコースではなさそう、ロープが張ってあった。多分がけ崩れの跡らしい



南側に降りたら、通行禁止の表示があった。道が崩れてコースが失われていた



「太東崎」九十九里の砂浜が終われば、一転荒々しい岩礁地帯となる



ここには東屋があって、お弁当を広げながら奇岩を鑑賞するのも良いね



次の訪問地は太東崎灯台だ、30分位で行けそう



「太東崎灯台」昭和 27 年岬の突端に開設したが、海蝕のため 200m奥に移転した無人の灯台



アリバイ証明の為に太東崎灯台をバックに一枚パチリ



次の訪問地は、太東海浜植物群落地を目指す、わずかな距離だ



「太東海浜植物群落」大正 9 年に国指定天然記念物に指定される、砂丘地帯に 50 種類以上の海浜植物が群生している極めて珍しい箇所



「コマツヨイグサ」かな



「イソギク」かな 砂浜が海蝕を受けて面積が縮小していると言う



海から離れて⑮コースのゴール地点 JR 長者町駅に向かう。まずは夷隅川(いすみがわ)を江東橋で渡る



外房線長者町駅 11 時 50 分到着、予定時間通りに着く

[参考タイム] 茂原駅(7:11)→東浪見駅(7:26-7:40)→九十九里海岸(8:10-8:15)→太東漁港
(8:55-9:00)→太東崎休憩所(9:45-9:50)→太東崎灯台(10:20-10:30)→JR 長者町駅(ゴール)11:50
実績 15.6km/4:10 この項完

「関東ふれあいの道(千葉)⑯黒潮の潮騒を聞くみち」に続く